

FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY REPORT
2026



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた
見やすいデザインの文字を採用しています。



ノンVOC(Volatile Organic Compounds)インキ
大豆油インキの比率をほぼ100%に高めたもの。
大気中への有機化合物の揮発はほとんどあり
ません。



FSC® 認証用紙
この印刷物には、FSC® 認証用紙が使用されて
います。



Waterless
印刷時に有害な廃液がでない「水無し印刷」で
印刷しています。

フジトランス コーポレーション

本社
〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
TEL:052-653-3111(代) FAX:052-652-7110
<https://www.fujitrans.co.jp/>

2026年6月発行

FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY
REPORT

2026



<p>03 会社概要 グループ一覧</p> <p>05 事業ハイライト(2025年度)</p> <p>06 サステナビリティ方針 フジトランス サステナビリティ ビジョン2050 推進体制 目標 登録・認証</p>	<p>08 脱炭素社会の実現</p> <p>09 環境保全と資源の循環利用の最大化</p> <p>12 健康経営による働き方改革の促進 健康 DX 安全</p>
---	--

編集方針

「フジトランス サステナビリティ レポート」は、フジトランスグループのサステナビリティに対する考え方や取り組み内容をまとめた資料です。事業に直接関連する内容のほか、SDGsやCSRに関する内容も網羅しています。



Webサイト「フジトランス コーポレーション SDGs」<https://www.fujitrans.co.jp/csr/>

対象期間	2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日) 一部、前年度から連続する活動内容を含む
報告サイクル	年次報告として毎年発行
発行	2026年6月(前回:2025年6月)
報告範囲	株式会社フジトランス コーポレーションおよびグループ会社の取り組み
お問い合わせ先	株式会社フジトランス コーポレーション サステナビリティ推進室 〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号

Top message

サステナビリティ方針の達成に向けて

フジトランスグループは2021年、長期の取り組み事項として「フジトランス サステナビリティビジョン2050」を策定いたしました。企業が果たすべきCSR(企業の社会的責任)の枠を越え、本業である物流事業を通じて社会課題の解決を図り、持続可能な社会を実現することを経営の重要柱の一つとして据え、日々の活動を推進しています。

わたしたちの事業の柱の一つであるRO/RO船による内航輸送は、陸上輸送を海上へと振り替える「モーダルシフト」の中核を担っています。これはトラック輸送と比較してCO₂排出量を大幅に削減できるだけでなく、トラックドライバー不足を解決する一助となります。多くのお客様から強い関心と期待を寄せられているこの事業活動そのものが、SDGs(持続可能な開発目標)への直接的な貢献であると自負しています。また、国が推進するカーボンニュートラルの戦略においても、船舶による物流は極めて重要な対策と位置付けられています。

しかし、これらの船舶や輸送機器で使用する化石燃料由来のCO₂を排出していることは揺るぎない事実であり、この削減は私たちに課せられた喫緊の課題です。世界的な潮流である2050年までのカーボンニュートラルの実現を見据え、当社グループでは「2030年度までにCO₂排出量を2019年度比で25%削減する」という具体的なマイルストーンを設定しています。

この高い壁を乗り越えるため、私たちは挑戦を続けていきます。船舶においては、航路最適化による運航効率の追求

と、新造船への革新的な省エネ技術の実装を加速させています。また次世代燃料である水素やアンモニアの技術動向を注視する一方、輸送機器においても同様に低炭素化を進めています。未来のエネルギーへと切り替える「最適な一手」を常に見極めていく方針です。

また、物流業界を支える「人」の問題も避けては通れません。現場を支える現業員、船員、乗務員の深刻な人手不足は、事業の継続を左右する最重要課題です。私たちは、社員こそが最大の財産であると考え、多様な人材が長く活躍できる環境づくりに注力しています。

その一環として、定年延長制度を整備し、ベテラン社員が培ってきた貴重な知見やノウハウを次世代へ円滑に継承できる体制を整えました。さらに、社員が心身ともに健康で誇りを持って働けるよう、柔軟な働き方を支援する制度の拡充や、個々の成長を後押しする研修制度の充実に努めています。社員一人ひとりのエンゲージメント(貢献意欲)を高めることこそが、組織の底力を強める最良の道であり、私たちの事業の土台であり決して妥協が許されない「安全・品質」の維持、向上も高めることができると確信しています。

そして、複雑化し増加する業務に対し、事業本部ごとにチームを組成し取り組んでいるデジタルトランスフォーメーション(DX)を加速させていきます。特に生成AIをはじめとする最先端テクノロジーを駆使し業務効率化を図るとともに、これまでにない新たな事業価値の創造を目指してまいります。

2025年度は、環境性能に優れた新造船の建造や、海外での新規拠点の設立など、未来に向けた大きな一歩を着実に踏み出しました。私たちフジトランスグループは、「フジトランス サステナビリティ ビジョン2050」の下、グループの総合力を発揮して、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に向けて、力強く前進してまいります。

代表取締役社長

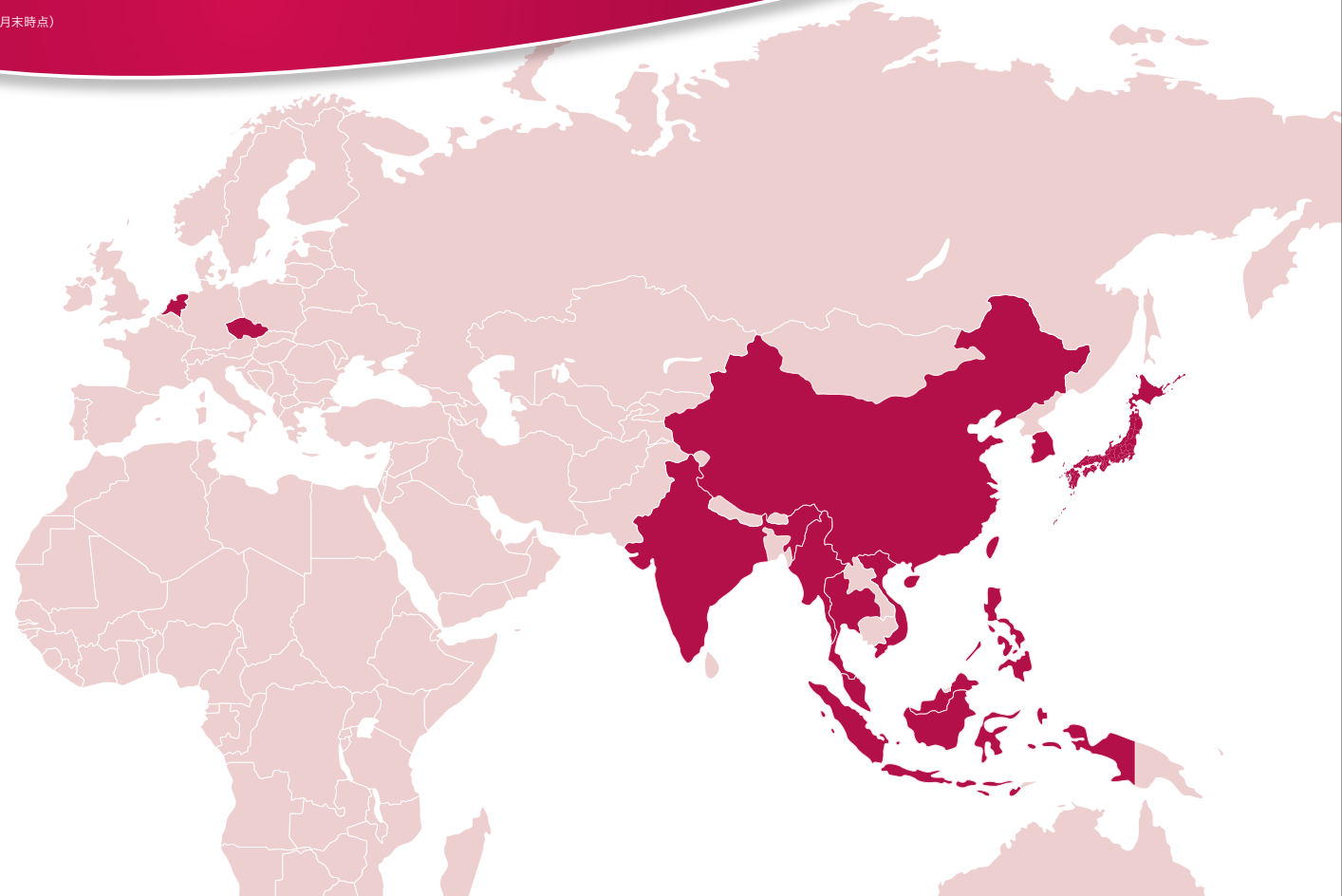
津本 昌彦



会社概要

Company profile

(2026年4月末時点)



当社は1952年に名古屋市港区で創業した創造的総合物流企業です。港湾運送事業・内航海運業を中心に海上・陸上・航空輸送、保管・在庫管理、梱包、通関など物流に関わるあらゆる事業を展開しています。特徴は、内航船舶を運航する船会社としての側面を持っている点です。

設立当初は、木材の荷役を中心とする港湾運送会社でした。1960年代、モータリゼーションによる物流需要の増大を的確にとらえ、1962年に我が国初の自動車専用RO/RO船「東朝丸(とうちょうまる)」を就航させることで内航海運業に本格的に進出。完成車の国内輸送分野で成長し、現在の基盤を確固たるものになりました。今日、北海道から沖縄まで国内に18カ所の支店・営業所を有し、海陸一貫で車両・一般貨物輸送を行っています。

一方、輸出入の取扱い範囲とサービスの拡大のため、積極的に海外展開に取り組んできました。1977年、シンガポールで駐在員事務所を立ち上げて以降、フォワーディング業務、船舶代理店業、倉庫業、梱包事業、陸上輸送などへ業容を拡大してきました。現在では北米、欧州、東・東南アジアに法人を置き物流ネットワークを展開、そして2025年度には初めて南アジアに拠点を設立しました。

これら国内外のネットワークを駆使して、完成車(乗用車、農機、建機など)や自動車部品を中心に、農産品、衣料品、化学品、非鉄金属、木材チップなど、さまざまな貨物を取り扱っています。また、長大貨物の輸送にも精通しており、宇宙関連機器や航空機部材、プラントなど豊富な輸送実績があります。

名称	株式会社フジトランス コーポレーション (FUJITRANS CORPORATION)
本社所在地	〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
設立年月日	1952(昭和27)年9月29日
資本金	2億円
代表者	代表取締役会長 系井 辰夫 代表取締役社長 津本 昌彦

主たる営業種目	港湾運送事業、内航海運業、貨物利用運送事業、航空運送代理店業、通関業、倉庫業、梱包事業、海上運送業 他
従業員数	単体:1,427人、グループ:4,079人(2026年4月末)
連結対象会社数	34社(2025年度)

事業領域	<ul style="list-style-type: none"> ●国際物流サービス ●国内物流サービス ●保管・梱包 ●港湾荷役
------	---



グループ一覧

地域	国	法人
日本	日本	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)フジトランス コーポレーション ●日藤海運(株) ●(株)フジトランス ライナー ●(株)フジトランス ロードサービス ●(株)オーシャン リンク (2025年4月1日に鹿児島船舶から社名変更) ●(株)富士トランスポート ●(株)厚真ファーム ●興國海運(株) ●(株)まるしん運輸 ●徳昭船舶(株) ●(株)アドバンスド フレイツ サービス ジャパン ●朽木合同輸送(株) ●朽木合同陸運(株)
北米	アメリカ カナダ	<ul style="list-style-type: none"> ●FUJITRANS U.S.A., INC. ●VALFREIGHT, INC. ●VASCOR, LTD.
欧州	オランダ チェコ	<ul style="list-style-type: none"> ●FUJITRANS (EUROPE) B.V. ●FUJITRANS CZECH s.r.o.
東・東南アジア	中国 韓国 シンガポール マレーシア タイ ミャンマー フィリピン インドネシア ベトナム インド	<ul style="list-style-type: none"> ●FUJITRANS (SHANGHAI) CO., LTD. ●BUSAN GLOBAL DISTRIBUTION CENTER CO., LTD. ●FT LOGISTICS (ASIA) PTE. LTD. ●TOTAL LOGISTIC SERVICES (M) SDN. BHD. ●FUJITRANS (THAILAND) CO., LTD. ●FUJITRANS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD. ●FUJITRANS (MYANMAR) CO., LTD. ●FUJITRANS LOGISTICS (MYANMAR) CO., LTD. ●FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC. ●PT. FUJITRANS LOGISTICS INDONESIA ●PT. FUJITRANS GLOBAL FREIGHT INDONESIA ●PT. SENOPATI FUJITRANS LOGISTIC SERVICES ●FUJITRANS (VIETNAM) CO., LTD. ●FUJITRANS LOGISTICS INDIA PVT. LTD.

計15カ国

事業ハイライト (2025年度)

2025年5月 テレビCM放映開始

テレビCMの放映を東海3県で開始しました。幅広い方々に当社や港の仕事を知り興味を持っていただくのが狙いです。

2025年5月 ミャンマーで発生した地震被害に対する支援

被災地支援のため、人々の生活再建の一助として日本赤十字社を通じて救援金 200万円を寄付しました。

2025年6月 社長交代

津本昌彦前専務取締役が代表取締役社長に昇格し、系井辰夫前社長は代表権を持つ会長に就任しました。

2025年10月 津波避難ビルに指定

行政等からの依頼を受け当社本社ビルが津波避難ビルに指定されました。区内住民や観光客の一時避難場所としての機能を想定しており、有事の際は2階の会議室を開放することにより地域の災害対策機能の強化に貢献します。

2025年10月 なごやSDGsグリーンパートナーズ 最上位クラスに認定

当社本社が、名古屋市環境局が主管する「なごやSDGsグリーンパートナーズ 認定優良エコ事業所」に認定されました。2023年度に「認定エコ事業所」に認定後、環境に対するさまざまな取り組みを積み上げたことにより、今回最上位の認定区分を取得しました。

2025年11月 新造船 命名・進水

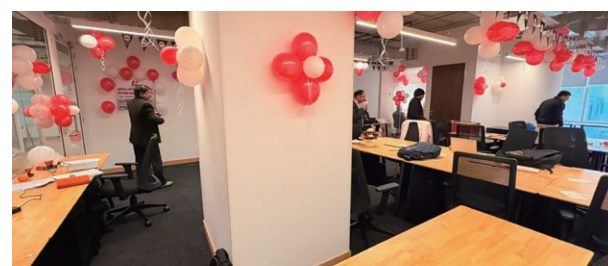
当社は、広島県尾道市の内海造船(株)因島工場で、内航RO/RO船「蓉翔丸」の命名・進水式を行いました。

この船の船内は7階層になっており、上部船首形状は従来型船首形状と比べて船首を平坦な構造とすることで積載面積を増加させています。またプロペラ旋回流によるエネルギーロスを推力に変換するベッカーツイストフィンを採用しています。船型の工夫も含め同名の従来船と比べて約20%のCO₂排出を低減する見通しで、長期方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン2050」の脱炭素社会の実現にも貢献します。



2025年12月 FUJITRANS LOGISTICS INDIA PVT. LTD. 設立

当社は、インドに現地法人を設立しました。旺盛な内需を背景として急速に需要が拡大する物流インフラに対応し、最適な物流ソリューションを提供します。



サステナビリティ方針

フジトランス サステナビリティ ビジョン2050

当社は、国連が推進するSDGsの考えに賛同し、持続可能な社会の形成に貢献するため、経営理念に基づいて注力すべき重要課題を4つに絞り込みました。そして、これらを長期方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン2050」としてまとめ、2050年を目標達成年としました。当社グループが社会・環境と共に持続的に成長・発展していくための指針です。

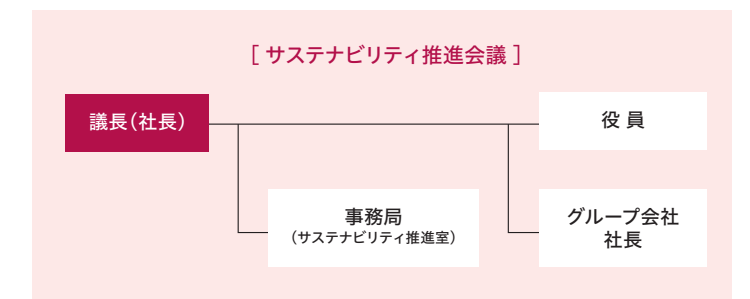
[経営理念]

- 1 誠実で公正な企業活動を通じ、社会から信頼される企業を目指す。
- 2 安全で高品質な物流システムの開発に努め、お客様に魅力あるサービスを提供する。
- 3 つねに経営の革新に努め、あらゆる分野へ挑戦し、持続的に発展成長する。
- 4 地球に感謝し、環境にやさしい活動を実施し、社会・地域に貢献する。
- 5 相互信頼、共通認識を基本とし、社員とその家庭に安らぎを与える企業風土をつくる。

マテリアリティ	脱炭素社会の実現	環境保全と資源の循環利用の最大化	健康経営による働き方改革の促進	SDGs関連の新たな収益モデルの確立
社会・当社の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● GHGの把握と削減 	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林や海洋の環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ● 働きがいのある職場の確保 ● 多様な働き方への配慮 ● 安定的な雇用の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業による社会課題の解決
主な施策	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代燃料への対応 ● 再生可能エネルギーの積極利用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海洋・森林を含む環境の保全 ● 廃棄物の削減 ● 再資源化製品の積極使用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康経営優良法人の取得・維持 ● DXによる業務効率の改善 ● 社員エンゲージメントの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会課題解決に向けた新たなビジネスの創造

推進体制

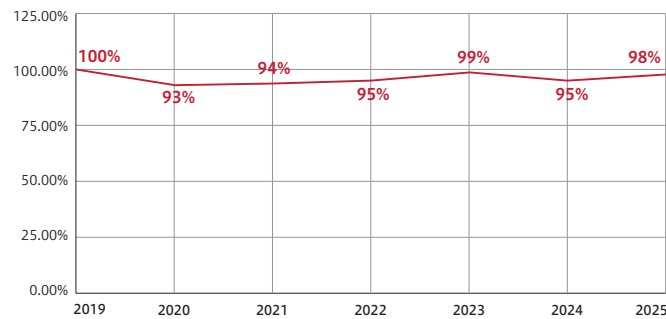
SDGsをグループ共通の課題と捉え、対応するために、グループの経営者で構成する「サステナビリティ推進会議」を定期的に開催しています。サステナビリティに関する様々な情報を共有し、取り組みを協議しています。



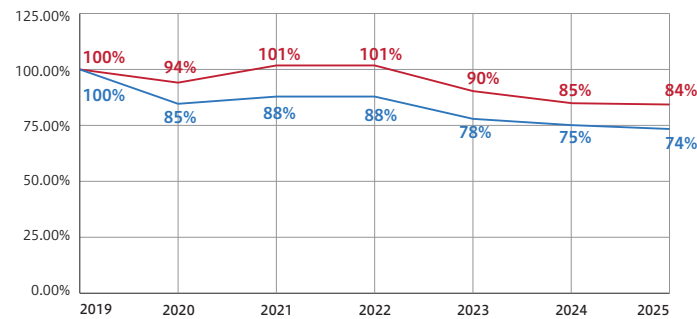
目標

	重点的な取り組み	目標
環境	CO ₂ 排出量削減による脱炭素社会の実現	2030年までに事業所や荷役機器等由来のCO ₂ 排出量を2019年度対比で25%削減する。
環境・経済	資源利用量の削減による環境の保全とコストの削減	2030年までに帳票などの印刷枚数を2019年度対比で50%削減する。印刷コストを40%削減する。
社会	働きやすい職場づくり	2030年までに「健康経営優良法人プライト500」の認定を取得する。

CO₂排出量 ((株)フジトランス コーポレーション単体)
(2019年度を100とした場合の比率)



印刷枚数・コスト ((株)フジトランス コーポレーション単体)
(2019年度を100とした場合の比率)



登録・認証



●みなとSDGsパートナー登録制度
(株)フジトランス コーポレーション
朽木合同輸送(株)

[経済分野]



●DX認定事業者
(株)フジトランス コーポレーション

[環境分野]



●なごやSDGsグリーンパートナーズ
(株)フジトランス コーポレーション 本社 (認定優良エコ事業所)
朽木合同輸送(株) 本社 (登録エコ事業所)



●国際森林認証制度 (SGEC)
(株)フジトランス コーポレーション フジップの森



●内航船省エネルギー格付制度
(株)フジトランス コーポレーション
ふがく丸、いずみ丸 (★★★★★)
日藤海運(株)・(株)オーシャン リンク
日昇丸、日侖丸 (★★★★★)

●BELS (建築物省エネルギー性能表示制度) 豊橋支店
●CASBEE (建築環境総合性能評価システム) 本社

脱炭素社会の実現

物流は、私たちの暮らしと経済活動にとって大切な機能の一つです。その役割を果たしながら、地球温暖化の主な原因とされる温室効果ガス、とりわけCO₂を削減し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

モーダルシフト等推進事業で事例紹介

当社グループが参画するモーダルシフトの取り組みが、2024年度に引き続き国土交通省中部運輸局の2025年度モーダルシフト等推進事業の活用事例として取り上げられました。愛知県から東北地方までトラックで輸送し

ていた区間の一部を当社内航RO/RO船による海上輸送に転換することで、長距離ドライバー不足への対応やトラック輸送で排出されるCO₂の削減を推進します。

自社運営コンテナヤードにRTG導入

当社は、同社が運営する西浜コンテナヤードに専用ヤードを整備し、トップリフターからニアゼロエミッション型RTG(タイヤ式トランスファークレーン)に入れ替えしました。このクレーンは、ディーゼル発電機とリチウムイオンバッテリーで構成されたハイブリッド仕様で燃費が従来機の約4分の1になるため、環境負荷を大幅に低減できます。将来的にはディーゼル発電機を水素燃料電池(FC)に換装することで、脱炭素を実現できます。



導入したトランスファークレーン

アマモ場造成

当社は、2024年度より伊勢湾におけるアマモ(海草)場の造成事業で東亜建設工業(株)と業務提携契約を締結しており、造成活動を継続しています。

この取り組みは、両社のサステナビリティ方針の共通点である「カーボンニュートラルの達成に向けた異業種連携」によるプロジェクトです。「海のゆりかご」と呼ばれ海洋生物にさまざまな恩恵をもたらすアマモ場を造成することで、伊勢湾内の水質浄化能力の向上、水産資源の維持増大と生産の安定を図ります。また、アマモ場の拡大によりCO₂の吸収量を増やすことで、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合が認証・発行する「Jブルークレジット®」の創出を目指します。



海底で育つアマモの苗

カーボンオフセットクレジット調達

当社は事業で排出するCO₂の一部を相殺するため、カーボンオフセットクレジットを定期的に調達しています。調達するクレジットは、基本的に森林由来のもので、河川を通じて海につながる森林を間伐などで適切に整備することによってCO₂の吸収を促すとともに、林業の支援や災害に強い国土の維

持も意識しています。購入したクレジットの一部は、新入社員研修や行事によって排出するCO₂のオフセットに使用しています。

FCフォークリフト実証実験

当社は、水素燃料の利用が検討されている「名古屋港湾脱炭素化推進計画」(カーボンニュートラルポート計画)の一環として、FC(水素燃料電池)フォークリフトの実証実験に参加しました。燃料の充填場所の制約がある一方で、電気と比較し燃料充填時間が短いことや、操作性には概ね相違ないことなどを確認することができました。



実証実験の様子

環境保全と 資源の循環利用の最大化

事業活動で利用する資源を低減し、排出するゴミを削減します。
環境負荷の低い事業活動を心掛け、森林や海洋の環境も適切に保全します。

環境方針の
詳細はこちらへ



環境マネジメントシステム

環境方針に基づいて、事業所や船舶の一部でISO14001環境認証を取得しています。毎年、内部監査および外部審査を行い、マネジメントシステムが適正に機能していることを確認しています。

[ISO14001 認証取得サイト一覧]

会社	事業所・所有船舶
株フジトランス コーポレーション	<ul style="list-style-type: none"> ● 本社 ● 九号地事業所(フジトランスライナーを含む) ● 金城オペレーションセンター ● 空見物流センター ● 金城物流センター ● 豊橋支店 ● RO/RO船「ふじき」 ● RO/RO船「ふがく丸」 ● RO/RO船「蓉翔丸」 ● RO/RO船「清和丸」
株オーシャン リンク	名古屋事務所

名古屋市 市内一斉緑化活動

当社は、名古屋市が行う市内一斉緑化活動に参加しました。この活動は、より多くの種類の生物が訪れ、生息できるように配慮した緑化を推進し、生きもののつながりやその大切さを実感するものです。



開花したアジサイ

食品残渣の有効利用

当社は、フードロス削減の取り組みとして本社食堂から出る食品残渣の肥料化に取り組んでいます。

肥料を用いた敷地内の花壇で2024年度に引き続きバジルを栽培。有志の社員が水やりなどの世話をし大切に育てられたバジルの、再び本社食堂のメニューへと姿を変え、循環型社会への第一歩を実現しています。



花壇で育てたバジル

フードドライブへの協力

当社では、家庭で未利用となっている食品を持ち寄り、支援を必要とする方々へ届ける「フードドライブ」に協力しています。集まった食品はNPO法人を通じて寄付しています。この活動は、食品ロスの削減と社会貢献の両面から、持続可能な社会の実現に寄与するものと考えています。

森林の保全 社有林「フジツツの森」

当社事業の柱の一つである内航海運業にとって、海は重要な事業フィールドです。そして、その海に栄養分を供給する河川の上流にある山林もまた、当社にとって大切な環境だと考えています。そうした森林を健全に保ち、生物多様性を保全するため、当社は北海道共和町に約177haの森林を所有しています。

当社のマスコットキャラクターの愛称から「フジツツの森」と名付けられたこの森は、取得時点で樹木の薄い場所が含まれていました。そのため、二酸化炭素の吸収源となることを期待して人工林を整備し、天然林と併存させています。2022年には、地元森林組合と連携して持続可能な森林として保全していることから、国際的な森林認証制度「SGEC」の認証を取得しました。

また2025年度は、植林したアカエゾマツの成長を促す施業の過程で生まれた枝葉を、新たな価値へと昇華させました。枝葉を蒸留して製作したアロマスプレーをノベルティグッズとして活用を開始。手にする方へ、当社が守り続ける豊かな自然の香りをお届けしています。



成長するアカエゾマツ



製作したアロマスプレー

グリーンオリエンテーション

当社では、新入社員を対象とした森林での研修を実施しています。2025年度は名古屋港に流入する河川の上流域にあたる岐阜県東濃地域にて、地元森林管理者らの協力のもと、実際に森に入って間伐作業を体験し、森林保護の大切さを実感しました。次世代を担う社員たちは、サステナビリティにおける原点である「遠く離れた山の営みが、自分たちのフィールドである海に直結している」という気づきを得ることができました。



活動する新入社員

周辺美化活動

当社は、ISO14001(環境)の環境美化活動の一環で事務所周辺を清掃しています。各拠点から参加者を募り、落ちているゴミを拾い集めています。本社の夏季の活動では、本社近くのガーデンふ頭で毎年開催される「海の

日名古屋みなと祭」の後に実施しました。普段よりたくさんのゴミが散乱する祭りの翌日は、当社以外の近隣企業も同様に清掃を行って、連携して取り組みました。

干潟の清掃

サステナビリティ推進室ならびに新入社員が、愛知県の藤前干潟で開催された清掃イベント「藤前干潟クリーン大作戦」に参加しました。

藤前干潟は伊勢湾の最奥部にあり、当社事業所が多数立地する名古屋市港区と飛鳥村にまたがっています。日本有数の渡り鳥の飛来地としてラムサール条約(※)と国指定鳥獣保護区に登録されています。しかし、マイクロプラスチックを含む大量のゴミが河川や海から流れ着くため、市民団体を中心に清掃活動が行われています。

※ラムサール条約:正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。地下水系、浅海を含む広範な対象の湿地を対象に、保全と適正な利用を図ることを目的としている。



ゴミを収集する社員

福井県平泉寺白山神社の清掃活動

福井県勝山市にある平泉寺白山神社で年2回清掃活動を行いました。開山1300年を超える白山信仰の拠点となる由緒ある神社で、境内は一面が苔に覆われ旧玄成院庭園は国の名勝に指定されています。春と夏の大祭に合わせて社員が境内の清掃を行いました。

漁港の清掃

当社のサステナビリティ推進室とISO14001事務局が主体となり、常滑市の樽水漁港で清掃活動に取り組みました。この漁港は当社が東亜建設工業(株)と共に取り組むアマモ場の造成場所で、活動を支援くださる地元漁協への感謝の気持ちを込めて実施しました。

フィリピン海岸清掃

FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC.では、世界最大規模の海洋保全イベント「INTERNATIONAL COASTAL CLEANUP DAY」に参画しています。2025年度はサンタローサ本社をはじめ各本支店社員83名が、同社RO/RO船が寄港するバタンガス、セブ、イロイロ、パコロド、ダバオ、カガヤン・デ・オロの各港付近の海岸を清掃しました。収集したゴミは総計5,424kgに達しました。



バタンガスにて清掃に参加した社員

環境配慮型ノベルティグッズの製作

当社では、環境に配慮したノベルティグッズを製作し、配付しています。例えばクリアファイルは紙製にし、ボールペンにはバイオマスプラスチックや海洋プラスチックを、船のペーパークラフトには再生プラスチックを使用しています。

健康経営による働き方改革の促進

従業員にとって働きがいのある職場を提供します。また、多様な働き方に配慮し、安定的な雇用を維持します。

健康

健康経営宣言 - 社会のエッセンシャル企業として -

企業経営の基盤となる社員の健康を守ることは、企業の持続的な活動、発展の原動力です。当社は社是である『和』の精神に基づき組織全体で、社員一人一人が心身ともに健康で、働きがいのある活気あふれる職場づくりを推進し、社員とその家庭に安心を与え、社会・地域に貢献する企業を目指します。



健康相談会

社員一人ひとりが健康で生き生きと働けるよう、当社では個別健康相談の機会を設けています。健康診断の結果に基づき、保健師に相談できる体制を整えているほか、保健師による健康セミナーも定期的で開催しています。

2025年度は、本社地区の各事業所で3つのテーマのセミナーを実施しました。

2025年度 セミナー内容

- 「オーラルフレイルについて～噛む力をチェックしよう～」
- 「労務管理の観点で見るメンタルヘルス」
- 「酒とタバコと仕事と私～飲酒と喫煙の健康への影響について～」

ストレスチェック

当社グループでは社員一人ひとりの心身の健康を重要な経営課題と捉え、年に一度、全社員を対象としたストレスチェックを実施しています。

ストレスチェックは、労働安全衛生法で義務付けられている心理的な負担の程度を把握するための検査です。受検結果は心身のストレス反応、仕事のストレス要因、周囲のサポート状況の3つの観点から集計・数値化され、受検者本人に詳細な傾向とアドバイスが伝えられます。受検した社員は、結果を通して自身のストレス状況や課題を把握し、健康管理に役立てています。

ビジネスカジュアルの導入

当社グループでは、健康経営と働き方改革をより深化させるためビジネスカジュアルを導入しました。社員一人ひとりの自律性を促し、心身ともに健康で創造性を発揮できる職場環境を整備しています。

なお、当該活動は強制するものではなく、また職場環境等により特別の配

慮が必要な場合は別途ルールを定めています。それぞれの業務内容や職場環境に合わせた運用をすることで、誰もが心地よく、かつプロフェッショナルとして最大限のパフォーマンスを発揮できる環境を追求しています。

DX

FDX

当社グループでは、経済産業省が定める「DX認定制度」に基づき、2024年5月にDX認定業者に認定されました。現在、中期経営計画を達成するための手段の一つとして、独自のDX推

進プロジェクト『Fujitrans Digital Transformation (FDX)』を始動。各事業本部およびグループ各社が「FDXチーム」を組成し、知恵とデジタル技術を融合させ、業務プロセスの変革と事業成長を推し進めています。

DX方針の
詳細はこちらへ



安全

「ゼロ災」キャンペーン

全国の事業所を対象として、安全衛生協議会主催による「ゼロ災」キャンペーンを年2回実施しています。「全ての事故ゼロ」を目標に、従業員一人ひとりの安全意識を高め、安全で安心な職場づくりを目指す全社員参加の活動です。

キャンペーン期間中は、経営トップ層による現場点検や各専門委員会によるパトロールを実施しました。また、上期キャンペーンにおいては酷暑期の現業員を激励するため、下期キャンペーンにおいては寒冷期の現業員を労うため、役員が各拠点を巡回しました。

労働安全衛生方針の
詳細はこちらへ



スローガン ルールを守って みんなで目指す ゼロ災職場

熱中症予防キャンペーン

毎年5月から9月までの間「熱中症予防キャンペーン」を実施しています。酷暑になる前の5月から「暑熱順化(暑熱順応)」を理解し熱中症になりにくい体づくりに努めるよう社員に促すとともに、初期症状の放置、対応の遅れ

に繋がらないよう、始業時・食事時・休憩時に従業員の体調確認や動画視聴による教育、経口補水液や瞬間冷却材などの熱中症予防グッズの配付を行っています。

安全輸送強化キャンペーン

輸送中の事故や災害を未然に防止するため、輸送委員会と安全推進室が連携し、安全輸送強化キャンペーンを行っています。輸送委員会はコンテナ輸送部会と貨物輸送部会の2つから成り、主に陸上輸送における安全を管理しています。キャンペーン期間中には、基本動作や現場ご

との導線、トレーラーの安全点検、災害防止対策を周知しました。また、役員を交えて各現場をパトロールし、安全輸送が徹底されているか確認しました。



コンテナターミナルでのパトロール



九号地自社棧橋でのパトロール

交通事故撲滅キャンペーン

当社グループ全体で交通事故撲滅キャンペーンを実施しました。この取り組みは、グループ全体の交通事故の抑制と、従業員一人ひとりの交通安全意識の向上を目的とするものです。

そのうち、交通安全に関する研修では、実際に発生した事故の際のドライブレコーダーの映像を使って原因と対策の解説が行われました。

地震発生時の安心を支える防災体制

当社グループでは、防災訓練を定期的に行っています。その一環として8月と3月に、南海トラフ沖を震源とする広域地震が発生し、インフラが機能不全に陥ったと想定し、社員の安否と各事業所の被害状況を安否確認システムで確認する訓練を行いました。さらに外部講師を招き、巨大地震の発生直後から1時間の動きをシミュレーションする訓練を実施しました。刻々と変化する現場の被害状況に対し、限られた時間

の中で最善の対応を判断し、意思決定を下していく実践的なプログラムです。参加した社員は、緊急時における自らの役割と組織としての連携の重要性を深く学びました。

また、帰宅困難者の発生を想定し、防災備蓄を進めています。2025年度は、多様性の観点から品目を追加しました。性別を問わず、すべての社員が安心して待機できる体制づくりを推進しています。



状況の変化と向き合う訓練中の社員